

富山市立図書館

図書館だより

第4号



目次

特集 1 図書館と学校図書館の動き	1
特集 2 対談「学校図書館と公共図書館の連携」	3
図書館探検 自動車文庫	7
私のおすすめ本	9
レファレンスあれこれ	9
山田孝雄文庫資料の紹介 4	10

特集 1 図書館と学校図書館の動き

千葉県市川市における公共図書館と学校を結ぶネットワーク事業を中心として

子どもたちが自ら学び、自ら考える力を育むことを目的とした「総合的な学習」が2002年から本格的に実施されることになり、図書館の役割は益々重要なものとなってきています。

富山市においても市内全小中学校の図書室に複数校兼務のかたちで、学校図書館司書が配置されるようになりました。人が配置されたことにより、今までよりも図書室が整備され子どもたちも本に親しむ機会が増えています。

しかし、学校図書館は本来のサービスを開始したばかりであり、公共図書館が学校図書館と協力して児童向けサービスを充実させてゆく方法を模索している段階です。そこで、先進的といわれている千葉県市川市の「ネットワーク事業」について紹介します。

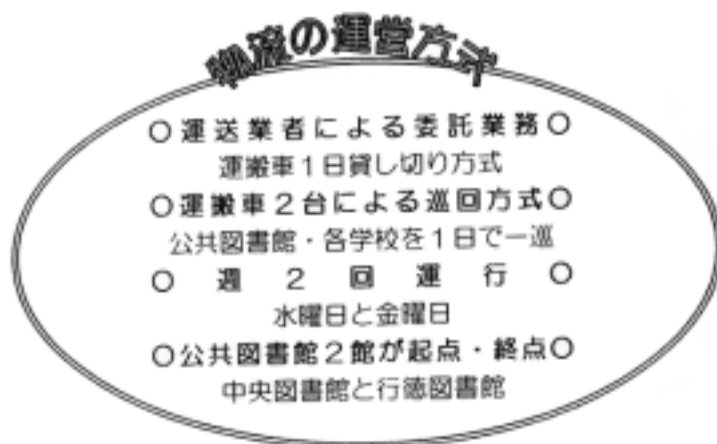
市川市は人口45万人の衛星都市です。以前から「図書館教育」の充実に力を入れており、平成4

年度より市内の小中学校に司書・読書指導員と呼ばれる非常勤職員を配置していました。単に人を配置するだけではなく、学校図書館と公共図書館が連携協力することにより幅広い情報と資料を提供できると考え、このネットワーク事業を開始しています。

市川市の教育センターが平成5年度より小学校4校・中学校2校を対象に公共図書館と学校図書館の図書貸借実験を始めています。

その後、学校図書館へのパソコンやFAXの配備、公立図書館蔵書の検索、学校図書館蔵書のデータベース化、巡回方式の運搬車運行など次々と実施していました。仲介役の教育センターは市川市立中央図書館内にあり、予算の確保や事業全体の計画を進め、各学校と公共図書館の交流会や研修会を企画したり、カリキュラムを調整し資料の効率的な活用をはかっています。

その結果、平成11年度には、市内の全小中学校（55校）、養護学校、幼稚園が参加し、市内全体の公共図書館、学校図書館のネットワークが完成しています。



市川市図書館ネットワークの概要

1 物流

- ・公立図書館と学校、あるいは学校間を「運搬車」で結び、調べ学習や読書活動に必要な図書をお互い借りたり貸したりする。
- ・民間委託した運搬車 2 台で、公共図書館 2 館をそれぞれ始点・終点として、市内の学校図書館を 1 日がかりで運行(週 2 回水・金)する。
- ・公共図書館には「ネットワーク専用貸出し図書 6,000 冊」を確保している。(これ以外の蔵書でも要望があれば貸出)

2 情報ネット

- ・インターネットによる情報の取得と発信。
- ・CD-ROM などマルチメディアの情報活用。
- ・公共図書館の全蔵書 84 万冊をインターネットで公開。

この両者(物流と情報ネット)があいまって次の成果を上げています。

各学校図書館の蔵書内容がお互いに分かり、本校にない図書が簡単な手続きで利用できる。

公共図書館の資料が有効に活用できる。

このネットワークでは公共図書館から一方的に資料が流れるため、偏ったネットワークになるのではないかと危惧する見方もありました。

しかし、表のとおり、学校間貸出が 8 割を占め、学校図書館の連携が促進されたことが分かります。また将来においては学校図書館の利用を通じて、図書館教育の成果が現れてくるかもしれません。

とはいうものの、運用しただけでは、危惧されるとおり、偏ったネットワークになり、公共図書館の一方的負担に陥る可能性もあります。

「生涯にわたって学び続ける市民」の育成を目指すこのネットワーク事業は、「公共図書館と学校図書館の役割をそれぞれにおいて認識し分担する」ことが基本にありました。

学校図書館と公共図書館が、本来の役割と機能を十分に果たすことが求められているのだと思います。

(大広田分館 黒田)

平成 11 年度実績

学校間貸出冊数	約 50,000 冊
公共図書館から学校	約 10,000 冊
その他	約 1,000 冊
合 計	約 61,000 冊

特集2 対談「学校図書館と公共図書館の連携」

紙面の都合により抜粋して掲載します。

出席： 富山図書館を考える会代表 江藤裕子
富山市立図書館児童奉仕係長 高峯美紀子

編集部 まず、子どもたちの読書環境についてお話を始めていただきたいと思います……

江藤 私は地域の子と本を楽しむ家庭文庫というものを自分の家でやっていますが、その文庫にも4、5年前から、あまり小学生が訪れなくなりまして、大変低年齢化しています。本を手渡すというよりは、育児支援的な場所に今は移り変わっています。

小さい子どもがたくさん来てくれるのは大変うれしいのですが、小学生や中学生は、これからどこで本と出会っていくのだろうか、不安な気持ちになりまして、学校図書館の充実を願うようになりました。

そして、富山市の場合は、平成8年度に学校司書が5名入りまして、昨年までに25名の学校司書が、富山市の小・中学校に数校兼務で、1日5時間勤務で、配置されています。

昨年の子ども読書年のとき、推進協議会の提案の中には、「小学校、中学校、高校などの新たな学校図書館整備充実と、小規模校を含めた司書教諭、学校司書の必要を働きかける」という一文が入っていました。これは子ども読書年を契機に、学校図書館をもっとよりよいものにしていこうという願いだっただと思うんです。私たちはこの一文を振りどころに、学校図書館がより充実することを期待していきたいと思っています。

高峯 私たちも学校訪問や学級招待で、学校と少しずつ接点がありますが、先生方から、「学校司書が配置されて図書室が開くようになったので、子どもたちがとても本に興味を持つようにな

った」という話を聞くようになりました。

江藤 この学校図書館の制度は、歩き始めたばかりで、学校司書の方たちも、2校から3校兼務なものですから、どうしても毎日同じように子どもたちに本を提供することができないのです。そのため、学校司書の不安はやっぱり、これほど本を薦めても、子どもたちは本好きにはならないんじゃないか、ということです。

高峯 昨年の読書調査によると、全く本を読まなかった小学生が16%、中学生で43%。ますます本を読まない子どもが増えている傾向にあります。

時々経験するんですが、今テレビなどで人気のシリーズを読んでいる子がいて、たまには違った本をどお？と勧めても、なかなか興味を持ってもらえないことがあります。そんなときは少々寂しく思うのですが、一時ぱーっと読んだら、読書から離れるのではないかと思います。もちろん、じっくりと本を探してくる子もいるし、私たちが薦めた本を「面白かったよ」といって返しに来る子もいます。そんな声を聞くのが楽しみです。

でも、私たちとしては、なにかしら心に残る本を1冊でも2冊でも増やして行って欲しいと願っています。そういうのを、本好きというのかな。その手助けをしていきたいと思っています。

江藤 文庫はもともと本好きな子が来る傾向が強いので、そして、だいたい限られた子どもたちに本を手渡せばいいので、やりやすい面があります。

それでも長いこと来てもらいたいと思いますから、この子がこれ読んだら、次はこれ見て下さいとか、こういう本を並べて待っていようとかいうふうに関心かけます。

その時に思うのは、やっぱり、大人の「ひと手

間」がないと、なかなか子どもたちが本の魅力に出会うまでには行かないということです。



ただ本と子どもたちを対面させても、なかなか手に取ってそれにのめり込むということにはならないんだな、ということを日々感じています。

高峯 私たちは残念なことに、顔なじみになるには、なかなか時間がかかります。

江藤 公共図書館は、利用者限定ではないですよね。どのような方にもサービスをということだと思っんですが、学校図書館というのは、利用者も限定されていて、この子にはこの本を、ということが可能なところだと思っんです。でも今のところ、週2日ないし3日ということで、なかなか全ての子どもたちに読書の喜びを、というふうにはなっていないみたいです。

文庫でも絵本の読み聞かせもしますし、わらべ唄もします。小さい子は本当にわらべ唄を好むということを実感として持っています。

でも、文庫で待っていてもしょうがない、と思っしたので、ストーリーテリングをしに、どこへでも出掛けるという活動もしています。そうすると口コミでいろいろ依頼がきまして、中学校や高校からも昔話を語ってくれというふうに言われるんです。

特に中学生がよく聞いてくれるんで、そういう姿を見ると活字離れとは言いますが、物語を好きだと思っ気持ちは、大きくなっても失われることはないんじゃないかな、というふうに思っます。

編集部 学校図書館の司書の方たちは「お話」などはなさいますか……

江藤 されます。でも中学校はね、あまり、その、取る時間が無いので、本の紹介とかオリエンテーションに、ほとんどの時間が割かれるようです。週に3日ほどですから、1学期の間に全てのクラスが終わればいいほうだと聞っています。

だから本当に何もしきれないという状況ですわね。

編集部 学校図書館の役割として、「総合的な学習」を支援するための活動についてはどうですか……

江藤 全国の学校で、総合的な学習を教育のカリキュラムにどう入れていくかを今検討中だと思っます。

富山県内でも小・中学校で2003年の実施に向けて、現在の試行期間中にいろいろな取り組みが行なわれていると聞っています。個人的には以前から創意工夫をして授業をしていた先生はいらっしゃると思っんですが。

そういう個人的なことではなくて、学校ぐるみで取り組むとか、計画の中にきちんと位置付けていることを新しい学習指導要領では示されているわけなので、今までの経験を踏まえてこれから構築していくという段階にあると思っます。

そこに学校図書館が行なう資料提供というのは欠かせないことだと言っられています。

で、そういう総合的な学習、ずっと研究してらした先生なんかだと、もう、まず、ブックトークから始まって、それからグループ学習などがある場合でも、その一本の流れと並行して、もう一本各個人個人が疑問に思ったことを自主的に調べていく、それに対して学校司書がレファレンスで答えるっていうそのもう一本の流れが大変大切だというふうにおっしゃっているんですわね。

ですから、今こそ富山でも総合的な学習を深める

上で、学校図書館の充実というのは欠かせないことだと思います。

高峯 学校図書館が、学習・情報センターとしての機能を発揮するために、学校で備えるべき資料は努力して備えていただきたいと思うのですが、各学校の蔵書だけで不十分なとき、学校間の貸し借りはありますか。

江藤 勤務時間外に個人的にはあるようですね。

学校司書の方は先生から依頼を受けた資料を集めるために、もちろんこちらの中央館に来て資料を集めるなり、県立図書館に行くなり、インターネットで検索をなさってますし、生徒さんのレファレンスに対してもそういうふうに資料を収集することはなさっていますが、それがまだ体系的には固まってきていないという感じです。

ただ富山市の学校司書の方たちが幸せだなんて思うのは、長い公共図書館の実績があることです。資料が充実しているということもあるし、公共の司書の方たちが気軽にアドバイスに答えてくださるってことが大変大きな力になっていると思うんですけれども。

高峯 昨年富山市立図書館が学校司書を通して学校へ貸出した本は、1,918冊利用されました。自然科学関係が170冊、社会科学関係が115冊、もっと利用があったのは絵本で、550冊貸出ました。

江藤 連携と言ってもあまりに公共図書館とは力に差があるのが現実です。そこでそういう資料の面で、それから、今までの司書の方たちの実績の面なりで、学校図書館と学校司書を育てていただくような形で支援していただけたらなぁというのは願いです。

編集部 具体的な学校図書館と公共図書館の連携として、例えば学校図書館で選書するときはそれぞれの学校単位でやっておられる……



江藤 そうです。それも、去年初めて採用された学校司書が入った学校もいくつかありますので、学校司書に選書を任せていただけてない学校もまだあります。そこがやっぱり3校兼務というもので、先生たちも任せきれない部分なんだと思います。

見計らい本って言うんでしょうか、ああいうもので選ぶ人もいるし、例えば、中学校ではほとんど月々買っていきみたいことができるんですが、小学校の場合は、夏休み明け前に全ての予算分の本を買わなければいけないというようなシステムの学校もあるようです。

編集部 公共図書館ではコンピュータが導入されて本の整理や貸出をしています。学校図書館の場合は……

江藤 そうですね。「代本板」を使っているところもまだあります。自分の名前の板を自分の借りた本の代わりに入れてくるというあれです。つまり今までは無人でも動く図書館を先生方は工夫して作ってこられたんです。字が書けない1年生でもそれを取り替えれば本が借りられるというわけです。

で、司書が入ってから、借りた子のプライバシーが守れる貸出方法が多くなりました。

編集部 学校司書の仕事の中で選書したり、整理したりするのは、相当の比重を占める……

江藤 ええ、そういう時間しか与えられないと言えば、与えられていないので。

でも心ある学校司書の方は、それでは図書館の本当の機能を広く子どもたち・先生方に分かってもらうことができないので、その仕事はちょっと早くから来てやって、後は、子どもたちの質問に答える時間にできるだけ費やすという形で、努力しておられます。

編集部 学校司書の仕事から図書整理にかかる労力を軽減することが必要なんですね。公共図書館は合理化や図書整理のノウハウを持っていますが……

江藤 そうですね、だからこちらで、新人研修だけ3日間ほどありますが、大変有意義な会だというふうには司書の人たちが言ってらっしゃるんです。

やっぱりもっと定期的に、公共図書館の蓄積・実績を伝えていただく研修会っていうのを保障していただけたら、学校司書にとって大変頼りになるんじゃないかなと思うんです。

編集部 家庭に余っている本がたくさんあると思うんですが、その活用はできないものですか……

江藤 それ、必ず出てくる話なんですけど、実は、家庭に眠っていた本が学校で生き返るかという、やっぱり眠ったままという本が多いんですよ。学校では本を捨てることがままならない。廃棄したい本があっても。

学校の体質が、もったいないことは、しないでおこうというものですからね。本の廃棄っていう習慣がないんです、学校に。

そうすると図書室で「廃棄したいんですけど」って出すと、いつの間にか学級文庫に入っていた

り。(笑)

高峯 図書館は「建物」「本」そして「人」がいて機能すると言われますが、学校司書の方たちの苦労がしのばれますね。

江藤 そうですね、先日石川県の松任中学の図書館見学に行きました。松任中学っていうのは、1学年9クラスある大きな学校なんですけど、1教室の1.5倍分の図書室があるんですけど、そこに終日勤務する正規の学校司書が入りました。朝から夕方までいらっしゃる職員ですね。

そしたらお昼休みのご飯を食べた後の20分か30分の時間に図書室が真っ黒になったんです。子どもたちで。そのうえ横の廊下に並んでいるんです。順番待ちで。それを見た松任市の教育委員会の人たちは「環境を作れば子どもは本に返る」というふうにおっしゃってました。

そういう環境設定をしてから読書離れ云々を論じなければいけないのかなあって思いますね。

学校司書が入ってこれで5年になりますから、そろそろ統一したやり方を記したマニュアルを作り、誰がどこへ異動しても同じような手順で仕事ができるようにしなければならぬと思います。やっぱりそれには公共図書館の司書の方々に助言をいただいでいくしかないと思っています。

高峯 学校図書館と公共図書館が情報を交換し合って連携の方法を探っていきましょう。

図書館探検

自動車文庫

情報も楽しさも

運んで走る、

もうひとつの図書館

- 自動車文庫(BM)

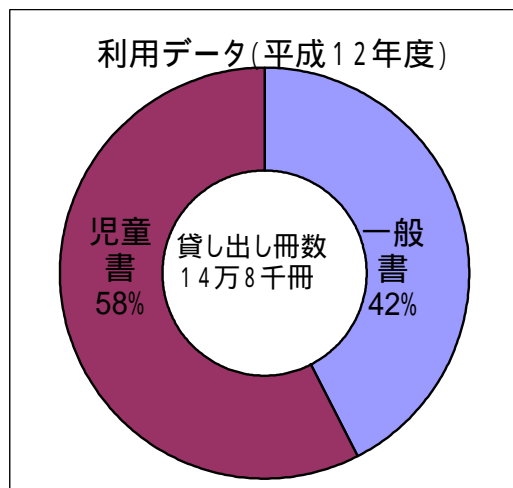


巡回サービス

図書館から遠い地域の皆さんに、月に一回または二回、曜日と時間を決めて巡回し、本の貸出しをしています。

貸出し期間は、次の巡回日までです。図書の返却は、中央館、各分館でもお返しいただけます。

年
その場で利用登録ができ
本も5冊まで借りることができます。



なお富山市立図書館の中央館・各分館で利用登録している方は**共通カード**ですので、そのままご利用になれます。

のべ利用者数は

29,629人



“読書の秋”

運びます

巡回場所は、図書館から遠く離れた町内へ出かけます。公園前や公民館前、そしてスーパーの駐車場などで、貸出しをします。

また、病院や高齢者デーサービス施設、小学校・幼稚園にも巡回しています。



自動車文庫についてのお問い合わせは、432-7272 (211・212)

現在、駐車地の数は

市内全域で160か所あります

巡回の日時・場所のお知らせは、富山市の

ホームページの中の図書館に掲載されています。

<http://sv06.city.toyama.toyama.jp/>



私のおすすめ本

「ニッポンの猫」 岩合 光昭 著
新潮社

この本は、野生動物の写真で有名な著者が、日本各地の海辺や路地、公園などで生活している様々な猫たちを撮った写真集である。家猫もいればのら猫も（美人猫もぱっと見がわるい猫も、可愛らしい小猫もふてぶてしい猫も）いて、血統証とは無縁の猫ばかり。ひなたぼっこや毛づくろいといったいかにも猫らしいポーズがとらえられているが、中には、鼻ちょうちんがふくらんだところや屋根から落ちる瞬間の写真もあって、やはり野生の動物を見つめ続けてきた人の一瞬をとらえる技術はさすがだなあと感ぜられる。

普段着の猫をなにげなく簡単に撮っているように見えるが、実際は、猫の好きな場所、居心地のいい場所を、猫の気持ちになって歩き回り、時には地面に腹這いになって、服にウンチをつけながらも、根気強くシャッターチャンスになるのを待ち続けて撮ったそうである。これは野生動物を撮る時にも通じることだろう。一瞬に対するカンとセンス、シャッターを押す勇気、行動力、対象となる動物についての豊富な知識、そして愛情。これらを持っている著者だからこそ、生き生きとした自然体の動物たちを撮ることが出来るのだ。猫の写真を見てなごみつつ、著者のすごさも改めて実感してしまうのだった。



さて、この春、福岡町のカメラ館で岩合氏の写真展があった時、以前から欲しかったこの本と「ニッポンの犬」(こちらは、柴犬や秋田犬などの日本犬の写真集で、どの犬も実にりりしくたのもし顔つきで写っている。コロコロとした小犬も愛らしい本)を買って求めた。すると、幸運にも講演会を控えた岩合氏がおられて、気前よくサインをしてくださったのだ。犬と猫の絵入りだった。絵心もある人である。

最近、アニマルセラピーという言葉をよく耳にするが、人間に最も身近でつきあいの長い犬猫を見たり触れたりするだけでも精神的にいい効果があるらしい。我が家にもじいちゃん犬とおてんば猫がいるが、会話がはずんだり笑いをひきだすもとなっている。彼らがそばにいても、ストレスがたまっている時に、動物の写真集やポストカードを見ることでリラックスできることがある。ストレス解消本としても、ぜひこうした本をおすすめしたい。
(堀川分館 尾屋)

レファレンスあれこれ

Q 桃井町の郷土史を作るのに、年代順に古地図があれば見たい。

A 当館には、江戸時代、明治、大正、昭和（戦前、戦後）の富山市街図の複製を所蔵しています。上記のご質問では、『万治年間富山旧市街図』（江戸初期）『旧富山城下市街図』（天保2年）『富山県上新川郡富山市街見取全図』（昭和18年）『富山市

街図』（昭和24年）の地図をお見せしました。貸出はできませんが、複写はできます。その他の地図については、『富山市を主とした富山県関係地図総合目録』（富山市立図書館・編）をご覧ください。（中央館 柴田）

Q 千葉県船橋市高野台という場所を地図で確認したい。この場所は、太平洋戦争当時、軍の施設あるいは野戦砲場、練兵場のようなものがあつたらしい。また、当時の様子が見えるものがあれば見てみたい。

A 質問者のご高齢の父上が、兵隊として行ったことのある高野台を訪問したいというので調べているという。『関東道路地図』『角川日本地名辞典』『千葉県の地名』『郷土資料事典』『千葉県の歴史散歩』に「高野台」という地名は出てくるが、新興住宅地のようであり、軍関係の記述が見当たらない。

そこで、『図説千葉県の歴史』の「戦争と軍郷千葉」の章を見ると、千葉県市川市の国府台（このだ）の記述があった。『角川日本地名辞典』で「国府台」を引くと、明治38年に陸軍教導団が廃止され、その跡に野戦重砲兵が駐屯、司令部もおかれ軍隊の町となり、太平洋戦争当時は高射砲

陣地となっていたことがわかった。

父上の記憶も曖昧であり、「コウノダイ」という読みから質問者は「高野台」と考えたいが、「国府台」が正確な名称であり、船橋市ではなく市川市であった。『関東道路地図』などで確認すると現在は運動公園になっている。また、県立図書館から『千葉県史』『市川市史』『日本砲兵史』を借用した。

質問者とお話していくうちに、「軍の施設」という情報を知らせて下さったことが手がかりとなった事例である。調べもののお手伝いをする際には、どんな小さな情報でもいただければ早く解決に結びつきます。（中央館 北山）

山田孝雄文庫の資料 4

山田孝雄一行書「清明在躬氣志如神」

「清明、躬(み)に在れば、氣志(きし)神(しん)の如し」は『礼記』の「孔子問居 第二十九」の一節です。意味は「精気を多く身に備えた人は、その意気の活動が神妙である」というもの。

山田孝雄の遺筆といえば「啓迪後人」（富山市立八人町小学校所蔵）と「誠者天之道也、誠之者人

之道也」（富山市郷土博物館所蔵）が比較的好く知られています。この2点は、山田孝雄文庫開設記念展のときに当文庫で公開されたので、ご覧になった方もあると思います。とはいえ山田孝雄の遺筆というのはたいへん珍しいもので、ここに紹介するのはその数少ない遺筆の一つです。



山田孝雄文庫の資料は山田孝雄が所蔵していた資料により成っていますが、この一行書は孝雄の所蔵ではなく、珍しく古書販売目録に掲載されていたのを遺族の山田貞雄先生がを見つけ、当館が京都の古書肆から購入したものです。付録として附いていた博士の長男山田忠雄氏（故人）のはがきにはこう書かれています。

「御申越の文句は 礼記に出典を持つもので父が揮毫に用ゐた者の一つです 四文字目は躬 です 印も三島の日本大学講堂に掛けてある額所用の者と同一です 父の書の偽物は恐らく無いことでせうから 真蹟と見て先づまちが

ひはありますまい 父は若年折書を不得意としましたが それを克服 書の骨法を得気力充実してからの晩年の書には見るべき者が有るやうに思われます」

しかし、山田孝雄は揮毫を頼まれても余り引き受けることがなかったと伝えられています。

これは前号で紹介した、谷崎潤一郎の現代語訳源氏物語の校閲を頼まれたときの、あの謙虚な態度と相通じるものではなからうかと思われま

す。中央公論社の編集者雨宮庸蔵の『偲ぶ草』によれば、当時山田孝雄が校閲を承諾するかどうか、また承諾しても谷崎訳の文章表現にまで加筆する態度を示すのではないかと心配したらしいのですが、仙台に赴いて頼むと「現代の小説の姿として源氏物語を再生することだと理解しています。その意味でおひきうけます」といい、谷崎源氏、昭和源氏と規定したとのこと。一言聞いて十を知る洞察力、学者としての限界をわきまえ、文章芸術の厳しさを知るのみでなく、即座に昭和源氏と規定する見識の高さに、雨宮氏は「省みて忸怩たるものがあつた」と書いています。

こういう山田孝雄の謙虚な人柄が、揮毫などを頼まれても引き受けないという態度になつたのではないのでしょうか。 （中央館 亀澤）

編集後記

日常の仕事で簡単な Word（パソコン用ワープロソフト）文書を入力するのは慣れていますが、この図書館だよりのような、デ

ジカメを使ってパソコンに画像を取り込んだり、修正したりという操作には、まだ習熟していません。操作入門書を片手に、編集担当者たちと四苦八苦して

います。それがまた楽しくて楽しくて……。

（中央館 北山）

平成 13 年 10 月 6 日 富山市立図書館 発行

〒930-0085 富山市丸の内 1 丁目 4 番 50 号 Tel. 076-432-7272

ホームページアドレス <http://sv06.city.toyama.toyama.jp/>